映像情報メディア学会ワードテンプレート (タイトル)

－技術報告形式 (サブタイトル)－

映像 花子† 情報 太郎‡ 学会 次郎‡

†第三大学工学部 〒105-0123 東京都港区山田1-2-3  
‡大阪株式会社開発部 〒565-0456 大阪府吹田市河田4-5-6

E-mail: †hanako@eizo.ac.jp, ‡{taro, jiro}@jouho.co.jp

**あらまし** Microsoft Wordによる映像情報メディア学会技術研究報告形式のテンプレートファイルです．

**キーワード** Windows，Word，映情学技報，テンプレート

ITE Word Template (Title)

－The Format of Technical Report (Subtitle)－

Hanako EIZO† Taro JOUHO‡ and Jiro GAKKAI‡

†Faculty of Engineering, Third University 1-2-3 Yamada, Minato-ku, Tokyo, 105-0123 Japan  
‡R&D Division, Osaka Corporation 4-5-6 Kawada, Suita-shi, Osaka, 565-0456 Japan

E-mail: †hanako@eizo.ac.jp, ‡{taro, jiro}@jouho.co.jp

**Abstract** ITE (The Institute of Image Information and Television Engineers) provides a word template file for the Technical Report of ITE.

**Keyword** Windows，Word，Technical Report，Template

1. 原稿用紙
   1. タイトルその他(1ページ目上部)に関して

技術研究報告の1ページ目上部には，タイトル，発表者氏名，所属，住所，メールアドレス，キーワードの和文と英文及びあらまし(和文300字程度，英文100語程度)を，それぞれ記述してください．

[特別招待講演]の方は[特別招待講演]，[特別講演]の方は[特別講演]，[招待講演]の方は[招待講演]，[基調講演]の方は[基調講演]等，一般の講演以外の方はタイトルの前に[○○講演]と必ずお入れ下さい．

* 1. 本文に関して

本文は1.1の「タイトルその他」に続けて記述してください．記述に関しては，このテンプレートファイルを用いて作成するか，あるいは，任意のA4判の用紙を利用することができます．その場合には，本文は左右18cm，天地25.5cm以内の長さにおさまるよう行間・字間を調整してください．

1. 原稿提出枚数

連絡用紙に指定の提出枚数が記載してあります．図・表，写真を含め制限枚数以内で作成して下さい．原稿を作成する前に，手持ちの原稿量と制限枚数とを十分勘定して必ず制限枚数におさまるようご注意ください．(枚数を超過した原稿は受け付けません)

1. 原稿の書き方

文字の色は黒とし，印字のカスレや濃淡のムラがないようご注意下さい．

文字の大きさ：本文は9ポイント活字を標準とし，字間および行間は適宜調整して下さい．

なお，コンピュータ・印刷機の機種による文字化けを防ぐために，ご使用いただくフォントは以下のものに限定させていただきます．

○日本語フォント：

Windowsの場合　MS明朝またはMSゴシック

Macintoshの場合

OSX以降　MS明朝またはMSゴシック

OS9.2以前　細明朝，中ゴシック，平成明朝，

または平成角ゴシック

○英字フォント：

　Times, Times New Roman, Helvetica, Arial, Symbol

やむをえずこれら以外のフォントをご利用の場合は，PDF変換時に「**フォントの埋込み**」を必ず行って下さい．埋込みをしていない場合の文字化けは著者の責任になります．

PDFファイルへの変換手続きにつきましては，

<http://www.gakkai-web.net/pdf/>　をご参照下さい．

1. 図と表，写真

図と表：原稿用紙の任意の箇所に直接記載（貼付）して下さい．

写真：出来るだけ一箇所にまとめて張り付ける（カラーで問題ございませんが，冊子は白黒印刷のためカラー写真も白黒となる旨ご了承ください）．

* 張り付けたものが原稿用紙の枠をはみ出ないこと．
* 図面，写真，表の文字や数字は本文と同じ大きさであること．

1. 著者贈呈分

出来上がりました技術研究報告は１件につき１部(合本)贈呈します．発表当日受付の担当者に発表者である旨お申し出下さい．

1. PDF化について

* セキュリティ設定はしないで下さい．
* ページ番号は挿入しないで下さい．

1. 著作権について

昭和５７年２月、昭和６１年４月の本会会告により、本会は会誌、論文、研究会資料、大会論文集等出版物の著作権は原則としてすべて本会に帰属することとしています。これは会員の学術的利益に資することを意図したものです。また、前記会告以前の著作物につきましても本会に帰属するものとしています。ただし当然のことですが著作者固有の権利である著作者人格権は著者が有しています。   
　本会に帰属する著作権には近年増えてきた電子的形態による利用も含まれていると考えています。従いましてｗｅｂ、ＣＤ-ＲＯＭ、電子図書館等に関わる著作権利用申請に対しましても本会が一括して対応する事としますのでご理解とご協力いただきますようお願いいたします。

**※「著作権規程」について**

　以前より、当会の発行物（「映像情報メディア学会誌」、「映像情報メディア学会技術報告」、「映像情報メディア学会年次大会予稿集」および「同ＣＤ－ＲＯＭ」、「映像情報メディア学会冬季大会予稿集」および「同ＣＤ－ＲＯＭ」等）の著作権は当学会に帰属しておりますが、近年、あらゆる場面で権利主張が行われる事態が予想されるため、次の通り「[著作権規程](http://www.ite.or.jp/content/copyright/)」を制定し、著作者から譲渡書を提出してもらい、著作権の譲渡を明確にすることとなりました。  
　これにより、著作権の不測の事態を未然に回避するとともに、第三者による侵害に対しては、著者とともに学会が対処することを明文化し、著作者の権利保護に当たりたいと考えておりますので、当会発行物にご投稿またはご執筆いただく方々には、原稿提出の際、譲渡書の提出にご協力下さい。  
**※「著作権規定」の主な内容**  
・著作物の著作権は学会に帰属させる  
・譲渡は譲渡書の提出により成立する  
・掲載されないときは譲渡書は無効とする  
・原著者が私的利用以外で使用するときは、学会は営利目

的以外の使用を許諾する  
・第三者による侵害にたいしては著者と学会がこれに対処する  
・この規程は施行以前の著作物にも準用される

1. 発行日について

研究会開催日（複数日開催の場合は初日）の1週間前が発行日となります．

1. 原稿提出（アップロード）先

発表お申し込み時に，研究会システムよりお送りした『原稿アップロード用URLのご連絡』メールをご確認の上，指定のURLからアップロードをお願いいたします．

**文 献**

1. (雑誌の場合) 著者名：“標題”，雑誌名，巻，号，pp.を付けて始め－終りのページ，(英語月年)
2. (雑誌例1) 山上一郎，山下二郎：“パラメトリック増幅器”，映情学誌, 62, 1, pp.20-27(Jan.1979)
3. (雑誌例2) W. Rice, A. C. Wine, and B. D. Grain： “Diffusion of Impurities During Epitaxy”, Proc. IEEE, 52, 3, pp.284-290( March 1964)
4. (著書，編書の場合) 著者名または編者名：“書名”，発行所，発行都市名(発行年)
5. (著書，編書例1) 山田太郎，木村次郎（編）：“移動通信”，オーム社，東京，pp.21-41(1989)
6. (著書，編書例2) H. Tong, Nonlinear Time Series，J. B. Elsner, ed.：“A Dynamical System Approach”，Oxford University Press, Oxford(1990)
7. (著書の一部を引用する場合) 著者名，“標題”，書名，編者名，章番号またはpp.を付けて始め－終りのページ，発行所，発行都市名(発行年)
8. (著書の一部引用例1) 山田太郎，木村次郎（編）：“周波数の有効利用”，移動通信，pp.21-41，コロナ社(1989)
9. (著書の一部引用例2) H. K. Hartline, A. B. Smith, and F. Ratlliff,：“Nhibitor Yinteraction in the Retina, in Handbook of Sensory Physiology”, ed. M. G. F. Fuortes, pp.381-390, Springer-Verlag, Berlin.
10. (国際会議の場合) 著者名：“表題”，会議名，講演番号，pp.を付けて始め－終りのページ，(英語月年)
11. (国際会議例) Y. Yamamoto, S. Machida, and K. Igeta：“Micro-cavity Semiconductors with Enhanced Spontaneous Emission”，Proc. 16th European Conf. on Opt. Commun., MoF4.6, pp.3-13 (Sept.1990)
12. (国内大会，研究会論文集の場合) 著者名：“標題”，学会予稿集名，講演番号，pp.を付けて始め－終りのページ，（英語月年）
13. (国内大会，研究会論文集例) 川上三郎，川口四郎：“紫外域半導体レーザ”，1995映情学年大，25-1，pp.20-21(1995)